

■ はじめに

この冊子は、かながわ教育ビジョンで提唱している「心ふれあう しなやかな 人づくり」の一環として、中学１年生の保護者の皆さんを対象に、家庭教育のヒントになることを願って作成した手引書です。

各家庭で子育てや子どもの教育を考えるため、また、子どものために教職員や地域の方々とよりよい関係を築くための参考として、子どもの成長を育む家庭づくりの一助となれば幸いです。

第１章 子どもの理解

■ ころとからだが変化する思春期

最近、子どもが中学校での出来事を話してくれない。

「もう、自分でできるから指図しないで」と言われて、ちょっとさびしい気がする。

一体何を考えているのかわからない。

そのような保護者の皆さん、まずは自分の思春期のころを思い出すことから始めてみませんか。
そして子どもの心の発達段階について考えてみませんか。

思春期は大人へのステップ

思春期は、子どもから大人への移行期です。からだは大人に近づきますが、精神的な変化がそれについていけず、「私はもう大人？まだ子ども？」と不安定になります。

また、自我意識が芽生え、「自分はどのような人間なのか」と自分探しを始めますが、自分の理想と現実の違いに戸惑い始め、時には悩むこともあります。

これまで絶対的で特別な存在であった保護者に対しても、成長に伴い、相対的、客観的な視点をもつようになります。その過程で、信頼や期待が反発や不満へと変わることもあります。

一方、この時期は、人間関係でのつまずきを経験しつつ、これからの人生を考え始める時でもあります。保護者が、様々な葛藤を抱える子どもたちを適切に支えることで、「人生の先輩」としての尊敬や信頼感が育まれていきます。

安全地帯があるからチャレンジできる

思春期の子どもは、社会や学校、友人、家族からの影響を受けながら、一人の大人として自分というものを確立していきます。

思春期に見られる様々な行動に対応するには、子どもにとっての目標と子どもが置かれている状況等を理解し、時には温かく見守ることも大切です。

子どもが自己を確立する過程においては、保護者の愛情はとても重要な役割を果たします。心の「安全地帯」としての家庭生活があるからこそ、子どもは安心して社会へ飛び込んでいくことができるのです。

